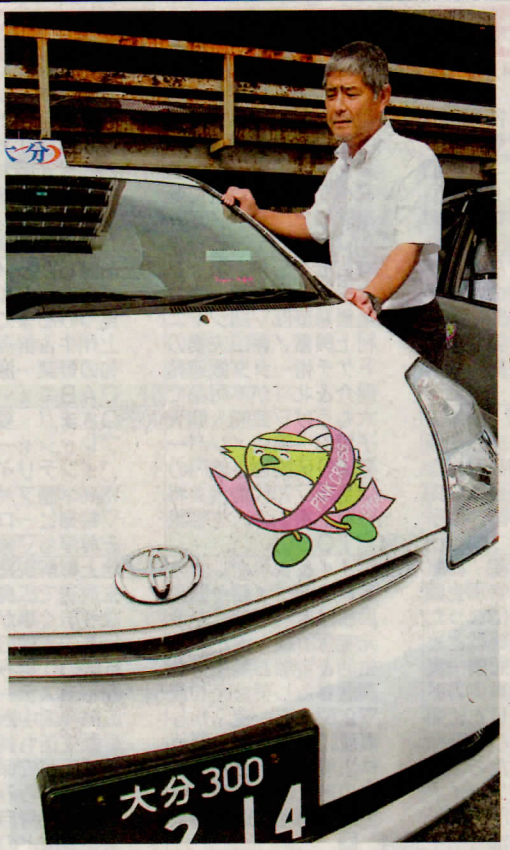
乳がん早期発見の力に

「乳がん検診で早期発見を」―。大分市新川の大分タクシーは受診を呼び掛ける「ピンククロス（ピンクリボン）めじろんタクシー」を運行している。家族や常連客ががんで亡くなったことをきっかけに、「力になりたい」と工藤哲弘社長(51)が社員らと取り組み始めた。現在は啓発用ステッカーを貼った2台を走らせており、売り上げの一部をピンクリボン活動に寄付する。工藤社長は「今後さらに台数を増やしていきたい」と話している。



大分タクシーが導入した乳がん検診を呼び掛ける「ピンククロスめじろんタクシー」と工藤哲弘社長＝大分市新川の大分タクシー

大分タクシー　車両に検診呼び掛けステッカー

きっかけは家族らの死

工藤社長は2012年6月に母モモヱさん（享年86歳）を肝臓がんで亡くした。「母は70歳を過ぎても会社の手伝いなど、精力的に働いていた。大きな病気をしたこともなく、忙しくしていたので自分の健康を気遣う余裕がなかったのだろう」と振り返る。

翌年には同社のタクシーをよく利用していた女性客が乳がんで亡くなった。何度も担当した60代の男性乗務員は「会話の中で病気のことは聞いていた。配車の依頼がなくなり、人づてに亡くなったことを知った。前向きに頑張っていたのに」と声を詰まらせた。

「何かできることはないか」。自然と乗務員たちから声が上がった。工藤社長はピンクリボン運動に取り組む「ピンククロス大分」（同市）の中沢有里代表(40)に協力を仰ぎ、団体オリジナルの「ピンククロスめじろん」を使った啓発用ステッカーを作製した。

中沢代表自身も乳がんで闘病しながら、美容皮膚科医として働いている。「乳がんリスクが高まるといわれる30代は仕事や育児、親の介護などで忙しく、自分の健康に構う余裕がない人が多い。ステッカーを貼ったタクシーが走ることで、人の目に留まり関心を持ってくれれば」と話す。

工藤社長は「女性はもちろん、男性も奥さんや恋人に乳がん検診を勧めてほしい」と呼び掛けている。

（川津奈央子）